

# Epistula

エピストゥラ … epistula,ae,f. 手紙、文章【ラテン語】

# vol. 22

2011.1【Jan.】-3【Mar.】

GEITAN presents

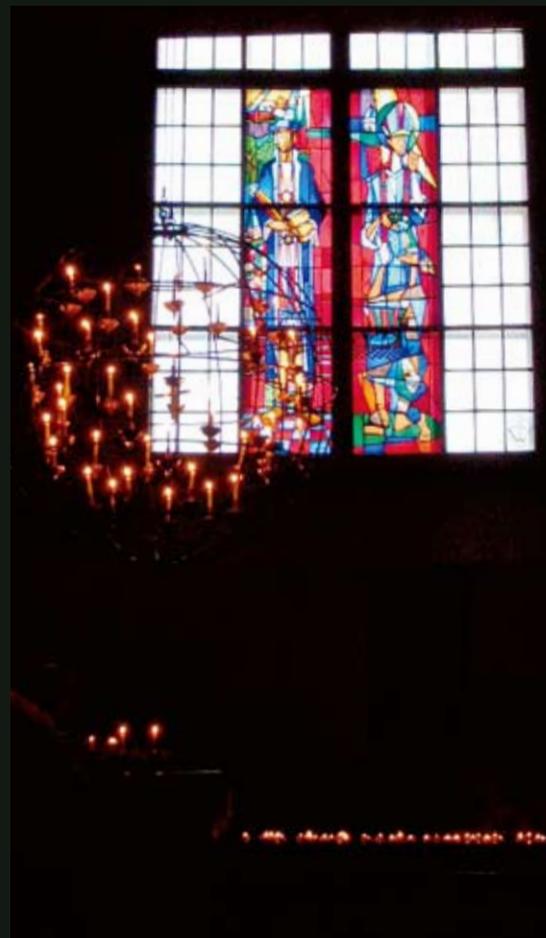
## 木下美穂子ソプラノリサイタル開催



今年度の《GEITAN presents The Great Artists》は、本学音楽科出身の木下美穂子さんを招いて11月29日、iichiko音の泉ホールでソプラノリサイタルを行いました。木下さんは本学卒業後、武蔵野音楽大学大学院を修了。日本の国内三大音楽コンクールで三冠王に輝くなど話題をよび、現在はニューヨークに居を構え、カナダやロンドンに活躍の場を広げています。リサイタルの前半では、抑制をきかせた豊かな歌声で、ヘンデルの『私を泣かせて下さい』やスカルラッティの『すみれ』、ヴィヴァルディの『来て、いとしい人』といった曲目を歌い上げました。休憩をはさんだ後半部分では、

本学音楽科の行天正恭と愛甲久美の両准教授も加わって、木下さんの十八番ともいえるオペラ『蝶々夫人』のハイライトが披露されました。繊細かつ大胆な歌唱力もさることながら、非情な運命に翻弄される可憐な主人公を、木下さんは持ち前の迫真の演技力で見事に演じ切りました。その存在感はまさに圧倒的といえるものでした。数々の国際的舞台上で活躍するプリマの妙技を堪能した観客席からはアンコールが起り、それはやむことがありませんでした。当日は500名近い来場者がありました。

リサイタルに先立って、木下さんとピアニストの平塚洋子さん、中山学長、木下さんを在学時に指導された阿部容子名誉教授の4名で座談会を行いました。木下さんは芸短での学生時代を回想しながら、「芸短ですごした音楽漬けの生活がプロになるきっかけとなった」「今の自分があるのも、クラス全員で練習に励んだ芸短での経験があったればこそ」など、ご自身と芸短との深いつながりを熱く語っています。詳細は本学のホームページをご覧ください。



## 第4・5回学長プロジェクトを実施しました

第4回目は、「アジアは一つになれるのか～東アジア共同体の行方」と題して、JICA理事の黒田篤郎氏が講演をしました。出身の経済産業省きってのアジア通である黒田氏は、グローバル化が進む世界でのアジアの重要性が飛躍的に高まっている現状を、詳細なデータを駆使してわかりやすく解説しました。アジア各地での駐在経験に裏打ちされた黒田氏の講演に、これから社会にでる学生たちも必死にノートをとりながら聞き入っていました。



第5回目は、朝倉文夫記念館館長である後藤龍二氏が、「大分の近代美術（あれこれ）」と題して講演を行いました。後藤氏の話は、藤雅三といった大分出身の画家からはじまって、日本を代表する黒田清輝や外光派のラファエル・コラン、ピカソやフランシス・ベーコン、さらには文学者のカミュまで多岐にわたり、その造詣の深さは聴衆を圧倒しました。後藤氏は講演の最後に、作品制作におけるコミュニケーションの大切さを説きました。その簡潔なメッセージは、美術やデザインを専攻する学生たちの未来の指針になりました。

## 江漢大学との作品展を行います

本学と中国・武漢市にある江漢大学は、2009年2月20日、学術交流、学生交流などを活発に行うことを約束し、交流協定を締結しました。

両学の交流の一環として、4月6日（水）～12日（火）、iichikoアトリウムプラザ（大分市）で、「創立50周年記念日本・大分県立芸術文化短期大学と中国・江漢大学との美術作品共同美術展」を開催します。これは本学創立50周年・江漢大学4校合併10周年記念と位置づけられたもので、テーマを“融”とし、両学間で教学理念、教育手段、専門能力などの各分野において互いに知り合い、「融合する」ことを意味します。

学生及び卒業生を対象に10分野で作品を募集し、各大学で募集した作品の中からそれぞれ選抜した合計60点の作品を同時期にそれぞれで展示することにより、合同展を開催します。開会式には江漢大学から張艶・芸術学院副院長、張鉄・芸術学院音楽科長が出席しテープカットを行います。

本学創立50周年事業はこの共同美術展から始まり、様々なイベントを企画します。

作品募集  
融

## 車いすマラソンウェルカム・パーティーを開催しました

11月10日に、大分国際車いすマラソン出場の海外選手を迎えてのウェルカム・パーティーを開催しました。国際文化学科1年生40名ほどが、オーストラリア、カナダ、ドイツからの選手5名と付添1名と交流しました。司会進行などはすべて学生が行い、積極的に英語を使ってコミュニケーションを楽しく取りました。歓迎のことばと中山学長のあいさつの後、海外選手に自己紹介してもらい、趣味や特技を聞くことができました。そのあと英語による日本や大分に関する〇×ゲームで盛り上がり、Q&Aのトークン・アクティビティで交流を深めました。全員でビートルズなどの歌を3曲楽しく歌い、お別れに手作りプレゼントを各選手たちに手渡しました。初めての試みで慣れないことも多々ありましたが、選手の方々に喜んでもらえ、学生たちも英語や身ぶり手ぶりを交えての国際交流を通じて自信をつけることができました。車いすマラソンへの関心も高まり、たいへん貴重な経験になったと思います。



## 高校生向け講義「芸術と文化」が開講中です

「芸術と文化」は高校生に芸術や文化に関する様々な分野に興味を持ってもらえるよう、本学の美術科、音楽科、国際文化学科、情報コミュニケーション学科の教員が分かりやすく講義を行うもので、今年度で3年目になります。全部で15回の講義が用意されており、毎回担当教員が変わります。今年度は大分県内の6つの高校から、合計65名の高校生が本講義を受講しています。



一部、受講後のアンケートを紹介します。

「韓国語のことから映画祭や、文章の作り方など様々な事を学べた。将来のためにもなってよかった」（担当：下川 大分商業高校3年生）「自分が今までにうけた授業とは全く違うのもで楽しかった。あつという間に時間が過ぎていった」（担当：中原 大分雄城台高校2年生）「初めて聞く言葉や、なるほどと思うところがありました。実際にやったSD法のテストもおもしろかったです」（担当：関口 芸術緑丘高校3年生）みなさん楽しんで講義を受講している様子で、嬉しい限りです。